

【大賞】 みやけ かよこ 三宅 加代子

N先生お元気でしょうか

昭和27年、小1の時父が退職しました。経済的に苦しくなり、両親から離れ、親戚の所にお世話になりました。小学校の時5度、中学で1度転校しました。

福岡、佐賀、愛媛県です。幼かった私は不安でした。特に優しくった母との別れは辛かった。握っていた手をいつまでも離しませんでした。

小6の時、思いもよらず前の学校のN先生が訪ねてこられました。

「加代ちゃん、元気にしていますか。」遠く家族と離れていた私を心配して下さいました。先生のお気持ちに胸が熱くなりました。

3年間担任としてお世話になった日々のことを思い浮かべていました。

転校に伴い生じがちないじめなども、先生が親身になって気を遣って戴いたお陰で楽しい日々がおくれたのです。お帰りになる時、叔母と一緒に先生をバス停へ送りました。

「加代ちゃん辛いことも多いと思うけど感謝の気持ちを忘れないでね。」と言われました。先生は私をじっと見つめておられました。その顔にゆっくりと微笑みが浮かび

「さようなら、元気でね。」と言われバスへ乗りこまれました。

バスは新居浜の緑の山々をあとにして去っていきました。その姿が見えなくなったとき、私は叔母の胸に飛び込み、うずくまりました。進むように涙が溢れ落ちるのを感じたのです。先生は雪のように色の白い、笑顔の美しい方でした。

夕方になると私はいつも寂しさを感じていました。そのようなとき私を包み込むような優しい先生の笑顔でした。60年経った今でも鮮明に憶えています。

先生とお会いするのはこれが最後でした。私が幸せになることが、先生が安心されることなのだ小さな胸で考えていました。自分が幸せになること、これが先生との約束だと思ったのです。お陰さまで今は明るい生活を送っています。

先生から戴いた「感謝の気持ちを忘れないで」は私を支えてくれました。

(福岡県/75歳/女性/主婦)